

震災による農業・漁業の被害と被害からの復興

2011年 3月11日 午後2時46分頃最大マグニチュード9.0という前代未聞の大震災が宮城・福島・岩手などの東北地方を襲い、この震災により発生した津波は死者15854人、行方不明者3155人という被害を出しました。

また、東京などでは余震の影響で鉄道が運転中止、家路を急ぐ車で大渋滞、完全に首都が麻痺状態になりました。

震災から1年6ヶ月過ぎた今現在でも福島の原子力発電所問題、震災孤児の問題などさまざまな問題を抱えている今の日本ですが、震災の後に日本の農業・漁業に与えた影響と復興の明るい面をまとめたいと思います。

▶ なぜ、農業・漁業の復興が大切なのか

皆さんも、新聞やニュースあるいは雑誌やネットで農業・漁業について見たり、読んだりしたことがあるかもしれません。

まず、一つ言えるのはこの問題は我々が一番に解決すべき問題だということです。

なぜなら、東北地方の農業・漁業が復興する事により、ますます東北地方の経済が活性化し、その部分から出た収益で被災した地区の瓦礫の撤去などが進むためです。

▶ 農業

農業は人命の次に大きな被害を受けたと言っても過言ではないでしょう。

この災害では、農地約23600haもの広大な地が冠水及び流水してしまいました。

農地・農業施設の損害額

■ 農地損害額

→401200000000 円＝4012 億円

■ 農業施設の損害額

→429000000000 円＝4290 億円

被害額だけ見ても想像もつかない程の金額ですが、これほど巨額な金額になってしまうのにはそれなりの理由があります。

農地・農業施設の被害箇所

■ 農地損害箇所

→17456 箇所

■ 農業施設の被害箇所

→21866 箇所

そう、被害を受けた農業施設や農地の数が余りにも多いのです。

農業の莫大な被害は津波だけで引き起こされたわけではありません。中には、地震により発生した大規模停電でボイラーへの送電が止まり、ビニールハウスで生産していた作物が被害を受けた、という農家まであります。

➤ 漁業

農業が津波で被害を受けている状況で、海に直接接している漁業が津波の被害を受けないはずがありません。東北は日本きっての有数な水産物の産地です。この重要な場所での**津波・福島第一原子力発電所の事故**は日本国内、海外における東北産の水産物の買い控えという最悪の結果を招いてしまいました。

➤ 農業・漁業の明るい面

これまでは、とんでもない額の損害が出た話とか、買い控えだとかマイナスの部分ばかり書いてきましたが、もちろん明るい面、復興が進んでいる部分もあります。

➤ 漁業への支援

漁業関係では、ほとんどの人が漁船を無くし、最初の段階では完璧な復興はどうてい無理だといわれていました。ですが、北は北海道から南は沖縄まで、日本全国から、また世界の国々からも寄付として多額の現金そして漁船自体も贈られてきました。

そして、津波で流れ出した震災瓦礫は自衛隊が掃海を現在でもしています。

➤ 農業への支援

農業は前にも書いたように、多大な被害を受けました。この場面では、農作物が風評被害に晒され消費者に買われなくなったりするのが一番怖い事態なので日本全国、各地の市場などで「被災地を救おう市場」などと称される大売出しや被災地の農産物を多く売ろうとする取り組み

みが行われています。

——復興のためには、何が必要か。

復興のために必要なこと、それに該当する事は数えられないほどあるでしょう。

でも自分が一番大事だと思うことは 2011 年の漢字にもなった「絆」という言葉が一番表しています。3月11日の恐怖を体験した人にこそできる支援・ボランティアがあります。

「がんばろう日本！」まさにその通り、元気な時の日本と元気の無くなってしまった震災後の日本、どちらも私たちの働きにより良くも、悪くもなります。

団結・団結・団結、人は一人ではなにもできません。

皆で協力し前と変わらない日本を作りましょう。